

# みんなの南アルプス

発行 南アルプスを未来につなぐ会 電話 054-221-2963 (事務局)



東俣林道沼平ゲート付近からの紅葉（静岡市中山間地振興課提供）

## 第3号発行

秋を迎えました。

前号の書き出しは『今年は例年になく早い梅雨明けを迎えました。』でした。

しかし、その後の天候が安定せず、とりわけ9月には台風15号により主導線である林道東俣線も大きな被害を受けてしまいました。現在はほぼ復旧し、畑薙エリアで見られるとても綺麗な紅葉を今年も無事に見ることができそうで良かったと、ホッと胸をなで下ろしています。

さて、前号から今号発行までの間、季節も大きく移ろいましたが、本会をはじめ、南アルプス関連の取組にも、様々な動きがありました。

今回は、これらの動きを中心にお送りをしたいと思います。

南アルプスはこれから、まさに宝石を鑲めたような束の間の輝きを見せ、長い眠りに入ります。

気が早いとは思いますが、来シーズン、どのような輝きで私たちを魅了してくれるのか、今から楽しみでなりません。

## ～令和4年度定例イベントの開催～

令和4年9月26日（月）に令和4年度の定例イベントを開催しました。今回は、晴れた場合は、遠方に南アルプスを望むことができる静岡県庁別館21階の展望フロアを使用し開催しました。

今回も、山極会長に御出席いただき、来賓として、（公財）イオン環境財団専務理事兼事務局長の山本百合子様や、山岳ライターであり登山ガイドでもある柏澄子様、また、本会理事の山崎宏様の3名にお越しいただき、『南アルプスの魅力と未来を語る』と題してパネルディスカッション等を行いました。



向かって左から山極会長、山本様、柏様、山崎理事

コロナ禍の関係で、50名に参加者を制限させていただきましたが、これを大幅に上回る方々からの応募があり、当日も盛況のうちに終了することができました。

## ～南アルプス全体構想の策定に向けた動き～

南アルプスをより良い形で未来に引き継いでいくためには、その礎となるべきランドデザイン、いわゆる「全体構想」が不可欠となってきます。

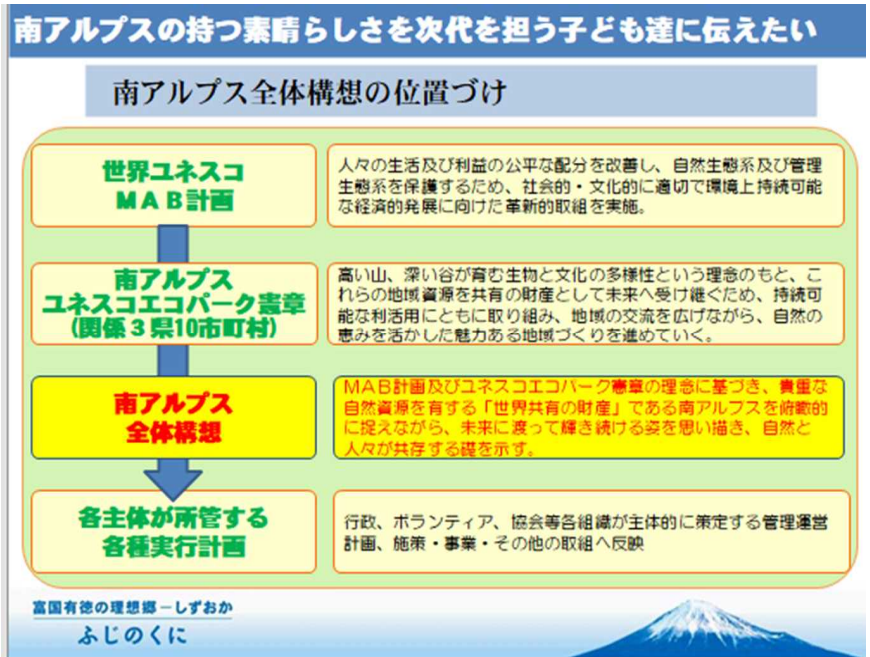
そこで、前回の理事会において承認された本会の役割である、南アルプスモデルにおけるシンクタンクとして、その策定に向けて動きはじめました。

現在、事務局において、今後の南アルプスの輝ける未来に想いを馳せ、次代を担う子ども達に伝え残すためにどのような方策をとるべきか。この命題について、バックカスティング（\*）型の検討原案の作成を開始しました。

今後、山極会長をはじめ、理事の皆様による協議を経て、できる限り早期に策定をしたいと考えています。

（\*）バックカスティングとは…

最初に目標とする未来像を描き、その未来像を実現するための道筋を未来から現在へ遡って考える検討手法です。課題解決を前提におく通常の検討手法（フォアカスティング）に比べ、大きな変革が求められる課題に対して有効とされています。



# 南アルプスの魅力を未来につなぐ取組

## 《『南アルプス魅力発信ツール（WEBアプリ）』の開発》

みなさん、子ども達は南アルプスをほとんど知らないことを御存じですか？

名前は聞いたことがあっても、**実際それがどこにあるのか、県内の子ですらそれを知らない**のです。

触れることがなければ知らないまま大人になり、知らないまま終わる。それは数字にも表れていて、山梨・長野県からの登山者数約183万人に対し、本県側からは3万人と大きな差がある状況となっています。

世の中、そういったものの方が多いのかもしれませんが、私たちはこの状況を改善することに挑戦することを選びました。

それが、南アルプス魅力発信ツール、通称：WEBアプリの開発です。

構成は、**現在各学校に配備されているタブレット等を活用した設問形式による教科教育と、体験型環境学習プログラムの2本立て**となっています。

ポイントは、**先生が教材として活用できるように学習指導要領に基づくほか、公開前に、徹底した教育現場での実証試験を踏まえ、実際に『使える』ものとする**こと。

もう1つは、**開発チームに将来教師を目指す大学生に参画いただくこと**で、自らが教鞭を執るにあたり、**南アルプスを伝えられる人材を育成**すること。

南アルプスは、世界共有の財産であり宝です。これが未来に渡り正しい理解のもとより良い形でつないでいけるよう、これから取組を進めていきます。

はじめに

世界クラスの自然環境を有する南アルプス

- 1 海底の記憶が刻まれ、今も隆起を続ける『国立公園』
- 2 豊かな生態系を守り活用する『ユネスコエコパーク』
- 3 日本に5か所、本州で唯一の『原生自然環境保全地域』
- 4 氷河期からの遺存種が今も残る『世界の南限』

**富士山にも比肩する『世界の宝であり財産』**



富山有線の理想郷—しずおか  
ふじのくに

南アルプスの持つ素晴らしさを次代を担う子ども達に伝えたい

『南アルプス環境学習アプリ』の開発に懸ける想い

＜現実＞  
存在をほとんど知らない  
・流域以外の小中高生は、南アルプスがどこにあるのかすらほとんど答えられません。  
・登山者数で見ても、長野・山梨県両県の約184万人に対し、静岡県は約3万人です。

＜なぜか・・・＞  
・南アルプスの研究者がほとんどいません。  
・そのため、南アルプスを教えることができない人がいけません。  
・だから、子ども達が南アルプスの魅力に触れ、学ぶ機会がありません。

＜だから・・・＞  
地域、流域はもとより、全国の子ども達が楽しみながら南アルプスを体験し、学び、知り、そこに住んでいることを誇りに思えるような人を育てるための仕掛けを創ります。

富山有線の理想郷—しずおか  
ふじのくに

南アルプスの持つ素晴らしさを次代を担う子ども達に伝えたい

子ども達に向けた2つのアプローチ

＜教科教育の視点から（設問形式によるアプローチ）＞

・各学校に配備されているタブレット端末等を活用した設問形式のコンテンツ

＜五感を使った（体験型環境学習によるコンテンツ）＞

・南アルプスに関する体験型環境学習によるコンテンツ

富山有線の理想郷—しずおか  
ふじのくに

南アルプスの持つ素晴らしさを次代を担う子ども達に伝えたい

開発のポイント

現場の声を徹底的に活かした（実効性の高いコンテンツ提供）

- ・小学校、中学校、高等学校及び大学などの授業や課外授業の場を提供いただき、幅広い年代の先生や教員がPOCに参加。  
※POC：Proof of Conceptの略

開発に携わるご自身を（人材育成に繋げる）

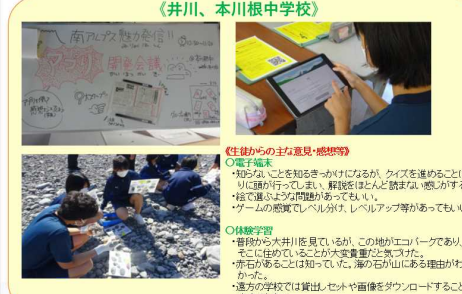
- ・将来教育者を目指す大学生が開発チームのメンバーに参加。
- ・コンテンツ開発を通して得た、教師として南アルプスを教えることができる人材を育成。

月日	実施校等	Nb	開発チームメンバー
9月30日	井川、本川根中学校	1	静岡大学教育学部教授
10月10日	静岡大学カッププロジェクト	2	静岡大学教育学部大学4年生
10月14日	静岡南高校	3	筑波大学山岳科学センター(井川(調査員))
10月19日	浜松学芸高校	4	帝京科学大学教授(環境教育研究)
11月9日	井川、本川根小学校	5	システム開発事業者
		6	NPO法人ホールアース研究所

富山有線の理想郷—しずおか  
ふじのくに

教育現場の声を活かすための取組例①

《井川、本川根中学校》



＜生徒からの主な意見・感想等＞

○電子版  
・知らないことを知るきっかけになるが、クイズを進めることばかに嫌みが行ってしまう。解説をほとんど読まないと感がある。  
・極で進まないと感動が湧いてこない。  
・ゲームの感覚でレベル分け、レベルアップ等があったらいい。

○体験学習  
・普段から大井川を見ているが、この地がエコパークであり、そこに住んでいることが大変貴重だと気づけた。  
・赤石があることは知っていたが、海が石が山にある理由がわからなかった。  
・遠方の学校では貸出機、セットや画像をダウンロードすることが出来る点が良い。

今後の予定（令和5年1月～運用開始）

子ども達の目に輝きを与え続けます

《南アルプスを自ら探求する》

- ・南アルプスに熱心な持ち主、自ら探求し、その未来に想いを馳せ、南アルプスをより良い形で未来につなぐため、自ら行動の輪に参画できる人を育てます。

《子ども達の笑顔があふれる場に》

- ・南アルプスを学び、楽しみ、理解できる場、機会を提供します。
- ・その中で、登山者の拠点であった『粗島』の新たな活用方法を提案します。

南アルプスをより良い形で未来につなぐ

## 《隠れた機能を搭載！》

このWEBアプリには、**隠れた機能が搭載**されています。その機能とは、**動画・画像投稿サイト**です。

希少種保護の観点で、撮影場所のデータは抜いてしまいましたが、登山者が撮影した動画や画像を投稿でき、これを本アプリ上にアップロードできる仕組みを設けています。

みなさんにお送りいただいた画像は、データベース化し、希少種の保護に役立てる一方、多くの方に魅力を発信できるようになっています。

教育に携わっている方、インタープリターのみなさん、本アプリを活用してみませんか？登山をされるみなさん、ぜひ当WEBアプリに貴重な画像の投稿をお願いします！！

## 魅力発信に向けた取組

### 《南アルプスユネスコエコパーク静岡地域連携協議会主催『観光キャラバン』開催》

当自然保護課も会員となっている標記協議会では、去る9月23日に中部横断道『道の駅富士川』において、主催事業として『観光キャラバン』を開催しました。

当日は、南アルプスユネスコエコパーク静岡地域協議会と南アルプスあぶとライン周辺地域誘客協議会と共同でブース出展し、缶バッジ体験工作や、くじによる景品プレゼント、各種パンフレットやジオラマの展示などを行いました。このキャラバンの開催日には、併設してシャインマスカットなどの即売会が行われていたこともあり、大変多くの方にお越しいただき、我々もテンション高く1日を過ごすことができました。このような前向きな取組は、主催している側としても大変楽しく有意義に感じます。回を重ねるごとに、盛り上がりが高まるよう、これからもがんばっていきます。

### 《当日の風景》



《準備風景》



《缶バッジ体験工作》

原画に色づけし、缶バッジにする体験工作です。多くの家族連れのみなさんが思い思いに楽しんでいました。くじ引きには高価商品も提供され、当たるたびに子ども達の歓声が聞かれました。

### 《欄外》

当日の私の中での一番のご褒美。  
会場で3パック食べ尽くしたにも飽き足らず、お土産に5パック買ったなんてとても言えない。  
(内緒だから小さい字で書いておきます)



# シリーズ企画：南アルプス探訪

前回から始めましたシリーズ『南アルプス探訪』。今回は南アルプスと大井川上流域の概要を紐解いてみました。

第2回は『南アルプスの基盤地質』についてです。

## テーマ：南アルプスの地質と地形の成り立ち (第2回：太古の海が生んだ南アルプスの基盤地質)

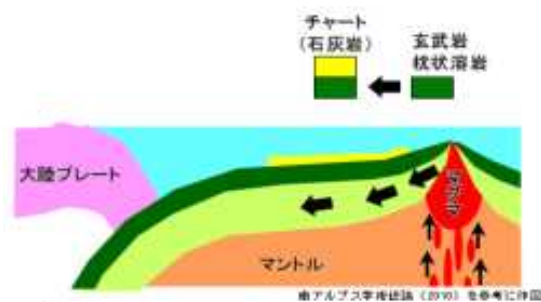
### 海洋プレートの形成と移動



海洋プレートが海嶺という海の底にある長い山脈状の火山帯で生まれ、海嶺から噴出した玄武岩質の溶岩が水中に流れだし、急速に冷やされ、枕状溶岩を形成します。

これが海洋プレートの最上部となり、順次海嶺でプレートが作られていくことで徐々に海嶺から離れていきます。

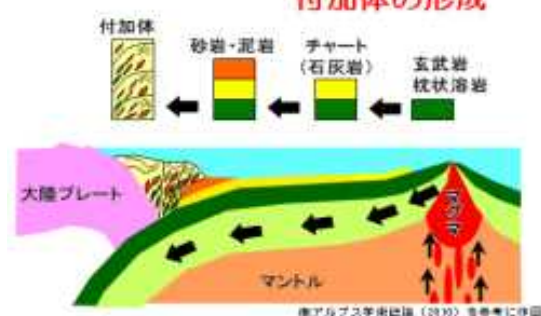
### 海底に堆積したチャートや石灰岩



珪酸質の殻を持つ海洋性プランクトンの放散虫が堆積してチャートと呼ばれる堆積岩を形成します。このほか、プランクトン由来の石灰岩など、海洋性の様々な岩石が海底に堆積しながら、海洋プレートは移動していきます。

海洋で堆積した岩石の上に、大陸起源の砂岩などを乗せて、海洋プレートは大陸プレートの下へ沈み込んでいきます。

### 海洋プレートの沈み込みと付加体の形成



海洋プレートが大陸プレートの下に沈み込む際に、海の底の堆積物が大陸プレートにどんどん押しつけられて積み重なり、付け加えられていきます。このような作用を「付加作用」とよび、堆積物の積み重なったものを『付加体』と呼んでいます。

### 四万十帯と南アルプス



赤石山地の大部分は、およそ2億年～2000万年前頃にかけての海洋プレートの沈み込みに伴って形成されたこの付加体からなるのです。

なお、赤石山地を構成する地質体は四万十帯を主体としており、この四万十帯の基盤岩が南アルプスになっていきます。

次回は『付加体の形成過程』をモデルを使ってお話します。

～南アルプスみらい財団を支える人たち～

8月11日（木）。  
この日は、山の日です。  
この日に合わせて発足した  
組織があります。

それが  
『南アルプスみらい財団』  
です。

前回号でお知らせした「南  
アルプスモデル」における実  
働組織として、榎島ロッヂに  
現地駐在事務所を置き、開山  
期は、ほぼ常駐の体制で南ア  
ルプスの保全と適切な活用、  
魅力に関する情報発信を専門

に展開していきます。今回は、これを支える事務局職員を御紹介します。  
写真真ん中は、専務理事兼事務局長の田島さん、向かって右がレンジャーの栗島さん、  
左は総務経理担当の伊藤さんです。

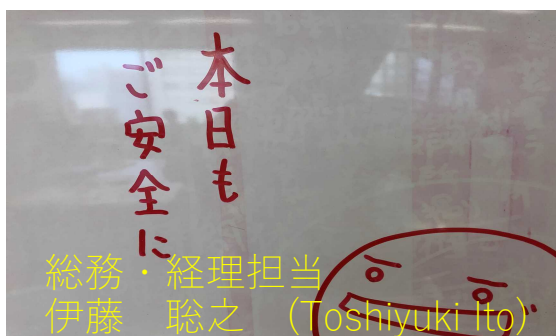
みなさん元は県の職員。田島さんは県を退職し正規職員として、栗島さん伊藤さん  
は、県からの出向職員として財団を支えています。これからの活躍に期待です！  
では、それぞれ簡単にインタビューを。



1960年生まれ、静岡市出身です。  
長年勤めた県を退職し、当財団のプロパー職員となりました。  
バイクが趣味で、学生時代トライアルの選手権で優勝したこともあります。スキーも1級、登山もキャンプもなんでも来い！楽しい南アルプスをつくりま



1989年平成元年、浜松市天竜区春野町の生まれです。  
H23年に県に入庁し、林業関係の業務に携わってまいりました。  
趣味は、中学校から続けている卓球と、社会人になってから始めたスキーです！  
山育ちで、山歩きが好きなので、この機会に、南アルプス地域の登山道を踏破するつもりです！



恥ずかしがり屋の伊藤さんからはコメントが。  
『 聡之「としゆき」と読みます。県からの派遣職員です。趣味はナイショです。経理と総務を担当しますが、お金の無駄使いは許しません！！！！』  
厳しい金庫番です。趣味がとっても気になります。絵が大変上手で、このように場を和ませてくれます。

## 編集後記

～これで最後、もう1度だけ自転車ネタにお付き合いください～

みなさん、渋峠って御存じですか？ロードバイク乗りの世界では、行ってみたい絶景スポットランキングに必ず名前の挙がるローディ（ロードバイクに乗る人の通称）憧れの、言わば「聖地」です。場所は草津温泉の上。群馬県と長野県のほぼ県境に位置し、日本の国道最高地点となっています。

当時、東京事務所に赴任していた私にとって、関東にあるこの峠は、静岡に戻ったら軽々に来られる場所ではないと思い、東京での集大成として鋭意練習に練習を重ねてきました。前回号の東京湾1周も実はこのための練習だったりします。

決行は、9月10日。渋峠は標高が2000mを超えるため、軽装での挑戦はこの時期を逃すと困難です。私は、レンタカーに自転車を乗せ、朝3時に出発し、7時には現地駐車場に到着。意気込みと緊張は頂点を迎え、複雑な気持ちが交錯します。

しかし、またもや悪夢が訪れます…。

あるべきものが、あるべき場所がない…。そう、私は痛恨の『忘れ物』という離れ業を演じたのでした。その正体は…靴。なんとサンダルで来てしまったのです。ロードバイクでは、ビンディングと言ってペダルと靴を金具で直接固定します。これでパワーの向上が図られ疲労からも解放されるというわけにはいかない必需品。

しかも、これから挑むは、あの渋峠。

それがサンダルなのです！まあ、サンダルにしてみれば、勝手に連れてこられて、これ以上迷惑なこともないでしょう。とにかく、来てしまった以上『やるしかない!』

覚悟を決めた私は、なんとサンダルで登り切ることに成功。無事、写真に収まるのでした。おそらく歴史上、サンダルで踏破したのは私だけでしょう。

このとき、私は至る所、至る機会に伝説を残していくべき天命を授かったのだと心に誓ったのでした。

それにしてもサンダルって…。どっかにお使いにいくんじゃないんだから…。自転車のお話おわり。



《渋峠にともに挑む羽目になった奇跡のサンダル》



《本当は全身入れたいのに恥ずかしいので膝上にした記念写真》

## YouTubeやSNSで南アルプスの魅力を発信中！

○YouTubeチャンネル「みんなの南アルプス」



○県職員が撮影・編集「南アルプスを守るお話」(YouTube)



○南アルプスを未来につなぐ会 各種SNS

Instagram



Twitter



Facebook



## 南アルプス環境保全基金

美しい南アルプスを未来につないでいくため、  
みなさまのご支援・ご協力をお願いします！

### 県外企業様はこちら 【企業向けふるさと納税】

- ①静岡県公式ホームページの  
サイト内検索で、  
「地方創生応援税制」と検索
- ②サイト内の寄附申出書を  
所定の提出先へ提出

こちらから  
簡単手続き！



### 県内企業様はこちら 【一般寄附】

自然保護課まで  
お問い合わせください。

### 個人の方はこちら 【ふるさと納税】

- ①インターネットサイト「ふるさとチョイス」の  
「自治体を探す」で静岡県を選択
- ②自治体一覧から静岡県庁ページを選択
- ③寄附金の使い道で「南アルプスユネスコ  
エコパークの保全管理と魅力発信等」を選択

こちらから  
簡単手続き！



方法は  
3つ！

